

ウォルター・ウェストンの軌跡を辿る

2014/11/14 妙義 金鶏山・筆頭岩

メンバー：斎藤(CL) 落合(SL)

行動時間：見晴らし台駐車場 8:10→金鶏山ピーク 9:00→筆頭岩取付 11:10

→P3 大テラス(登攀開始) 11:30→筆頭岩ピーク 13:10

→懸垂下降(2回)・南壁基部 14:00→下山(県道) 14:20



中ノ岳神社から望む筆頭岩(左)と金鶏山(右)

ウォルター・ウェストンが根本清蔵を案内人とし、日本で初めてザイルを使った近代登山法で登ったと言われる妙義の筆頭岩。

今回は金鶏山から縦走し、100年程前の先人の挑戦に思いを馳せながら筆頭岩を登ってみることにした。

平日の妙義のバリエーションなんて絶対貸切りと思いきや、世の中には物好きがいて金鶴山には先行の2人組の方が登っている。そんなことを言っても私と落合さんも人のことは言えないのだが。

金鶴山は表妙義の稜線からは離れており、そこだけが独立しているような山並みとなっている。そのため表妙義の金洞山や白雲山の展望がとても素晴らしい。



白雲山の稜線（金鶴山ピークより）

金鶴山のバリエーションをやるなら絶対金鶴山から筆頭岩を目指すのがお勧めだ。この大パノラマを望みながら最後にウエストンの登頂した筆頭岩を登攀できるからである。

金鶴山へは県道から南稜の尾根に取り付く。しばらく行くと妙義特有のたどん状の岩稜になる。上に行くと傾斜の強い樋状とリッジ状になるので適当に登る。私も落合さんも前回の木戸壁でたどん岩への不信感がありどうしてもホールド・スタンスが信用できない。ここは傾斜もあるので初心者がいれば迷わずロープを出した方がよい。



金鶴山直下のたどん岩の樋状＆リッジ

金鶴山から筆頭岩まで地形図上では稜線通しだが、実際には地図では読めない細かなアップダウン、岩稜・岩峰のトラバースなどが結構あり、ルートファインディングが試される。そこがバリエーションの面白さでもある。

実際、私も2回ほどロストして少し戻ってルートに復帰することがあった。

しかし、そこは妙義特有の地形とクセを熟知し西上州をこよなく愛する落合さんの抜群のカンと読みに救われ、まさにそれはウエ斯顿が根本清蔵を頼りにして登ったのと同じ安心感であるのと違いない。

ルートの詳細についてはこれから入る方のためにもあえて記述はしない。（渓嶺で入る人はもういないかも知れないけど…。）せっかくのバリエーションの面白味が無くなってしまうからである。現地でのルートファインディングはそこに足を踏み入れた人の楽しみでもあると思う。



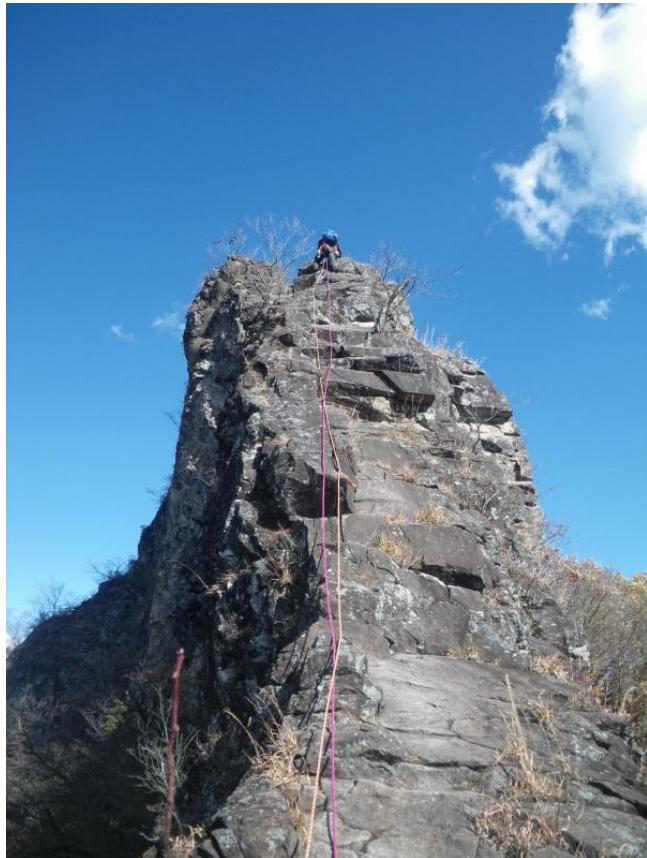
筆頭岩の「ハチの渡り」

根本清蔵がスズメバチに頭を刺され、瞼が腫れあがった片眼だけで登ったことからそう呼ばれているようである。ちなみに根本清蔵は自分が万一落ちるとウエ斯顿が巻き添えになるので自分はノーザイルで登り後のウエ斯顿を確保したらしい。(フリーソロ? !)

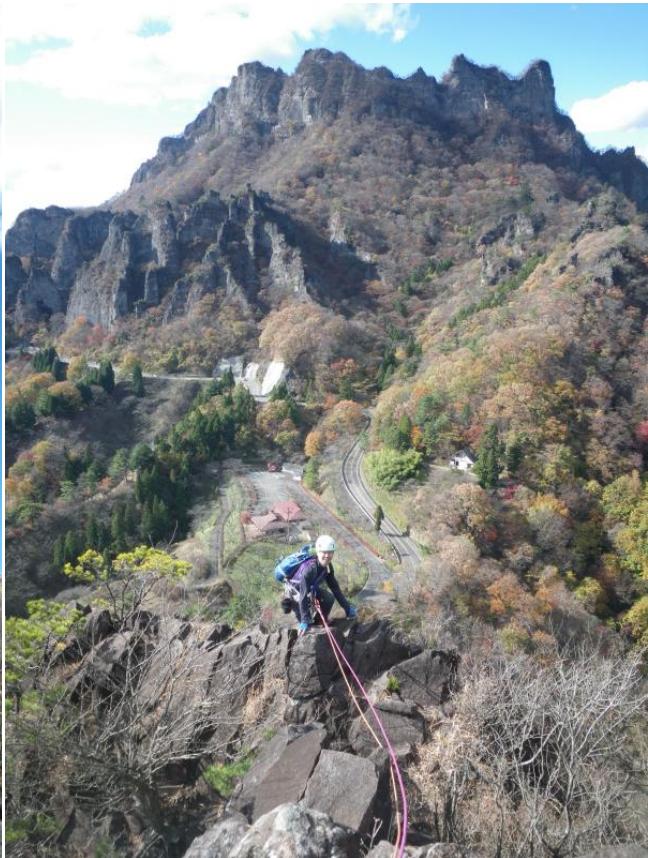
筆頭岩はP3の大テラスからP1のピークまで3ピッチで登れる。ここの岩質はたどん岩とは異なりクラックやリスがあるためナチプロで登った方が面白い。残置ハーケンはほとんどない。鎖はかなり古いらしく使わぬ方が賢明だし、フリーで登った方が楽しい。

ここまで行動は11月にしては暖かい位であったが、筆頭岩の岩稜に出たところで寒風吹き抜ける登攀となった。ロケーションは最高なのだが二人ともシェルを着ないで登りだしてしまったので寒さと鼻水に耐えることとなり、ウエ斯顿に思いを馳せるどころではなくなってしまった。

(ハチの渡りではいつからのものか分からぬが、ホームセンターで売っているようなロープがフィックスしてありいさか興ざめである。)

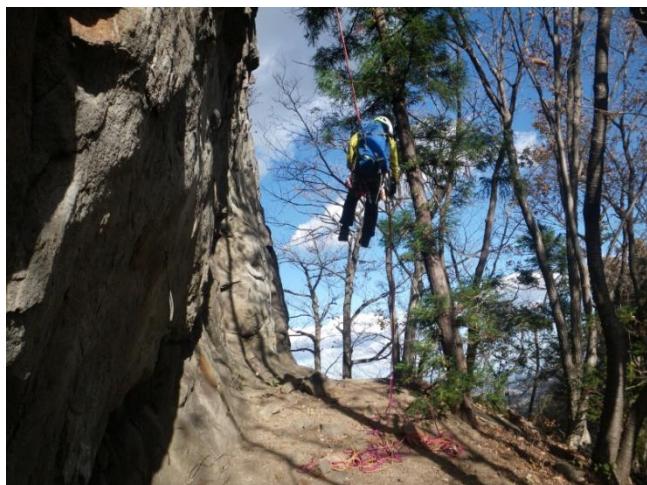


P 2への登り

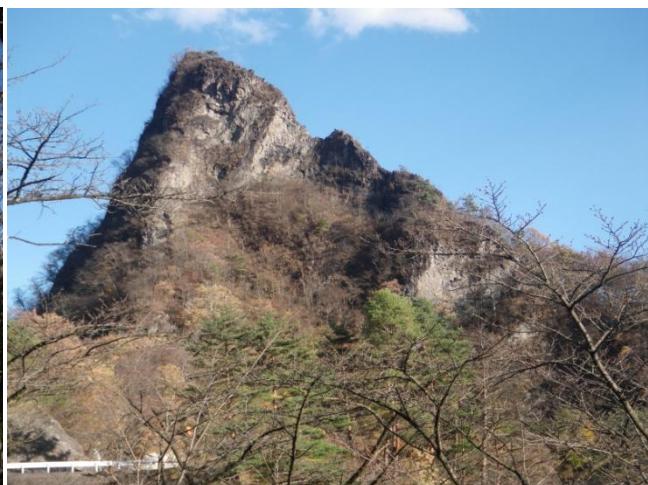


直下のリッジと妙義山

筆頭岩からは南壁基部への懸垂下降となる。最初はシングルで10m程テラスへ下り、2ピッチ目はダブルで30m程下る。最後は下降の方向にもよるが空中懸垂となるので面白い。あとは適当な所から下れば県道に出て終了となる。（県道が近いので絶対落石を落とさないよう注意が必要。）



南壁基部への懸垂下降



さくらの里からの筆頭岩
(ギャップが「ハチの渡り」)



金鶴山ピークにて

今まで西上州エリアは裏妙義の沢登りと木戸壁右カンテでしか行ったことがなかったが、表妙義は今回初めてであった。岩峰・岩稜の交錯する妙義の山容と地形は独特で、足を踏み入れれば踏みに入るほどその魅力に惹き付けられてしまう気がする。

1000mそこそこの山でありながら、岩も脆く、崩落や不明瞭さ等の不確定要素が多分にあり、かつルートファインディングの難しさと安全に踏破する技術を要する西上州の山々に大きな魅力と可能性を感じてしまう。

そんな西上州の山々にハマリそうである。たどん岩が好きになれるかもしれない。

ちなみに落合さんが相馬岳や金洞山を嬉しそうに眺めていたのは言うまでもない。

(記録：斎藤)